

首都圏中央連絡自動車道の開発に係る 埋蔵文化財の発掘調査について (二)

No.384

茂原市の西側をほぼ南北方向に貫く、首都圏中央連絡自動車道について二年前の前回（広報もばら二〇二二、五一発行、No.一一二九）に遺跡の発掘調査の必要性和重要性などについて触れました。

その際に発掘調査された遺跡の一つ「久下横穴群」を紹介します。久下横穴群は、茂原長柄スマートICのすぐ北側で、茂原街道との間の丘陵の斜面に穿たれた横穴式の墳墓群です。

「横穴群」は、横穴式の墳墓群という意味で、古墳時代後半の六世紀後半から七世紀前半頃に造られた集団のお墓を指しています。古墳時代後期は、全国的には各地の有力な豪族が一族の集団墓として小規模な盛土の古墳をまとめて造りそれらが現在でも畑や山林に土饅頭として残っている例が多くみられます。しかし、一部の地域では古墳が造



られずに別の形態の墓が築かれました。その一例が横穴墓です。千葉県では北総丘陵太平洋岸から南下して、山武地区、長生地区、夷隅地区、東京湾側の君津地区などで平地が少なく丘陵が多い地域に古墳に代わって横穴群が造られました。少し古い調査ですが千葉県で平成十五年刊行の所在調査では県内に四四五七基、近隣の長南町四七五基、長柄町四三四基が確認され、茂原市では一九二基・五十三群が確認されています（消滅を含む数）。これらは、山林の崖面に複数が存在し、崩落して埋もれていることが多く、実

数はより多いものと考えられ、この調査で久下横穴群は十一基でしたが、平成十八年から発掘調査では、倍の二十二基が調査されました。

長生地区の横穴墓は、斜面上の方に、横穴を掘り込み二〜五メートルで行き止まる壁から大きく上方に段差（二メートル強程）を垂直に設け、その先の上側に遺体の埋葬用の六〜八畳程度の広さの室内空間を造り出しています。入口部分から先で大きく段差を設けて埋葬施設を造るの「高壇式」横穴墓と呼ばれ、全国的には一直線のトンネル状の形態が主流の中で、この地域だけの珍しい特徴です。埋葬施設は、建物を模倣して掘削され、構造材の梁や垂木・長押などを表現する加工等がされている例が多く、竈型やアーチ形の天井形状も見られます。建物の壁部分には漆喰塗の痕跡が確認されたものもありました。

茂原市文化財審議会委員

加藤 正信

問合せ

生涯学習課（9階）

☎(20)15559 FAX(20)16007

文芸コーナー

俺、七十六才！

時女 礼子

「食べていっ俺七十六才」
ユニークな男性客が立ち寄った
この日のメニューは
メカジキの西京味噌焼きだった
電柱に登って佇んでいるのだと言う
何を伝えたかったのか
買い物かごの中を私に見せた
お菓子と果物が入っていた
ここに来ると必ず二人の娘の家にも
何か買うのさとボソツと言った
若い時は良い親父ではなかったから
罪ほろぼしのつもりだと
照れくさそうに笑った
男性は私のやゝ後ろにまわり
「このメカジキは旨いよ！買ってっ！」
目立たぬように呼び込みをしてくれた
そして右手をあげ少し領き去って行った
妙に印象に残る七十六才だった

◎選評 斎藤正敏

スーパーで試食販売をしている作者だが、さまざまな買物客の現実をきめ細かく観察している。今回は七十六才を名のる老人の登場だが、男の人生が垣間見え身につまされる。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書をお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※詩の原稿送付先（直接選者）へ 〒297-0032 茂原市東茂原7-55 斎藤正敏宛。
詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内をお願いします。